

日 時 令和5年9月8日（金）午後3時30分～午後5時

場 所 京都市役所分庁舎4階 第4会議室

出席者 大久保委員◆、大島委員、尾崎委員、小幡部会長、千葉委員◆、永田委員◆、
山口委員（五十音順） ◆：オンライン出席

1 開会

環境政策局 環境企画部長から挨拶

2 議題

京都市環境基本計画の進捗状況（令和4年度）の評価

事務局 資料に基づき、第1章から第3章まで説明。

尾崎委員 43ページの京都環境賞応募件数の達成率が100%となっている。対象者は学生か、一般の方なのか。

事務局 京都環境賞の応募資格について、特に定めていない。一般の方や企業を含めて応募いただいている。昨年度の大賞の受賞者は中学生の男子が受賞されている。指標値は累計ではあるが、毎年、同程度の応募数となっている。

尾崎委員 京都市から発信してほしいのか。

事務局 今年は6月から8月までの3か月間募集し、自主的に応募していただいている。

大島委員 14ページの「雨庭」について、昨今、様々な場所で道路冠水が起こり、人々の関心が高まっている。先日、緑化協会の方に話を伺ったところ、「雨庭」は多く整備されており、保水能力はダムいくつかに相当するほどと聞いた。一方、SNSなどでは、京都は財政が厳しい中、優雅な設備として嫌みの対象になっていることもあり、情報のミスマッチがあつて非常にもったいないと思う。保水能力を数値でPRしていくことが必要ではないか。

また、四条堀川の雨庭は、単に水をためるだけでなく、地域の人たちに御協力いただき、整備しているところも京都らしいと思う。

事務局 保水能力を数値で記載できるかなど、検討する。

山口委員 長期目標1のエネルギー消費量の削減率があまり進んでいない。16ページのエネルギー消費量のグラフについて、企業はかなり削減が進んでいるが、家庭は概ね横ばいで進んでいないのが現状だと思う。家庭では電気やガス、灯油が主な削減分野になると思うが、生活の質まで落として削減することは難しい。自分の家でどう削減すべきか考えたとき、冬は窓側

から隙間風が入って寒かったため、隙間テープを貼れば、ふわっと温かく感じ、効果があると思った。雨庭の保水力と同様に、アルミサッシのまま、二重窓にした場合を比較し、エネルギー削減効果、経済効果が目に見えれば、やってみようと思う方もいると思う。アルミサッシに目地を貼るなど、工夫を伝え、みんなが少しずつやれば大きな削減になると思う。

小幡部会長 居住地でのアイデアは多くあるので、冊子に記載するなど様々な形で啓発していただければと思う。

エネルギー消費量は家庭部門と運輸部門は減少し、業務と産業部門が増加したことは事実で良いか。

事務局 はい。令和2年度については、家庭部門が上昇したが、令和3年度についてはその逆で、業務部門、産業部門が上昇した。恐らくコロナの状況から経済活動が再開したためと思う。

大久保委員 京都市は全国で初めて条例により建築物の再エネ導入を義務付けているが、どのように再エネの義務を満たしているのか。高層ビルの場合、太陽光を設置するスペースが限られており、蓄電池だと思うがどうか。

新規の住宅については、脱炭素先行地域での先進的な取組があるが、それ以外の新規の住宅については、京都の場合、どこにポテンシャルがあり、どこに対策を打つのが一番良いのか、詳しい状況が分かれば教えていただきたい。東京都、神奈川においては、住宅メーカーに対し、新規住宅の再エネ導入の義務付けを始めている。

事務局 どのように建築物の再エネ義務を満たしているかは、恐らく太陽光発電だと思う。実際の特定制建築物を建てられる方が年間の基準量を満たすよう、我々が再エネとして認識している設備を導入していただいている。

ただし、基準を作ると、再エネ導入量が義務量を天井としてしまうため、それを上回る再エネ導入を図っていただくよう、国の交付金等を活用しながら補助制度により、インセンティブを働かせているところである。

再エネポテンシャルについては、先行地域の中でも課題であり、どのような建築物に再生可能エネルギーを導入し、需要とバランスを取るのか検討が必要と思う。大久保委員から御紹介いただいた他都市の事例を踏まえ、地球温暖化対策室と情報共有のうえ、検討していきたい。

大久保委員 12ページの「歩くまち・京都」について、コロナ禍前は観光客が多すぎて観光公害だと言われ、一方でコロナ禍では観光客が少なくなり、また、今は観光客があふれているという極端な状況である。両方を体験してそこから得られる知見があるのではないかと。観光と地域の生活を調和させるためには、バスやタクシーを使うだけでなく、徒歩や地下鉄など、うまく組み合わせられないと難しいのではないかと。この知見を公共交通計画へ反映することを含めて検討されているのか伺えればと思う。

事務局 非常に難しい話と思う。関連部署と連携しながら、相応しい在り方を今

から考えていかなければならないと考えている。

小幡部会長 臨時交通やパークアンドライドをなぜするか、大久保委員がおっしゃった状況など、良いところと悪いところ、全部含めてどうするか検討していただけるか。

事務局 承知した。もともとは、車の流入の関係で始まってきた話が、バスの中の観光客の皆さんによる混雑になってきている。そういう問題にも広がっていることに言及が必要と感じている。

大久保委員 24ページの生物多様性に関する取組について、国が進めようとしているOECMの取組は規模が大きくなければならないので、京のいきもの文化再生協働プロジェクトにおける、小さな取組がそのままOECMになるとは思えない。OECMに載らないような取組を広め、ネットワークを作っていくことは重要であり、この制度の取組や広がり、大変京都らしい取組として注目、評価している。同時に京都の中で国の制度で保全されている以外のポテンシャルで、ある程度広い部分でOECMになりそうなものがあるのか。そして、それに向けて取組は進んでいるのかをお聞かせいただきたい。

事務局 国の動きは注視をしているところであり、京都市内におけるOECMは意識しているが、具体的な場所や内容について、まだこの場でお伝えできる状況ではない。

OECMでは規模が大き過ぎてしまう、それを補完するきめ細やかな制度があると良いといった捉え方については、生物多様性を所管している環境管理課にも伝え、連携を図っていきたい。

千葉委員 主観的指標の部分は、今の調査より解像度を上げないと、言いたいことが分からない状態になるのではないかと。例えば、川のきれいさの結果について、とても簡単な属性別の分析であるが、居住地や年齢、例えば川の近くに住んでいる人と離れた所に住んでいる人とでは、かなり結果が違ってくるだろうと思う。あるいは、多様な生き物が生息する環境が保たれているかの結果についても、森林の近くに住んでいる人と都市域に住んでいる人とでは感じ方がかなり異なってくると思う。そこを考慮せず、実感度全体を上げていくのはかなり難しく、あまり意味がないような気がするもので、今後、属性別の分析ができるのであれば良い。

また、58ページにマイクロプラスチックの問題を周知していくことで、使い捨てプラスチック対策をより身近な問題に捉えていただくと書かれているが、マイクロプラスチックが使い捨てプラスチック由来であるかどうか、必ずしも科学的にまだ明らかになっていない。マイクロプラスチック量の調査結果から、使い捨てプラスチックを減らす必要があるとの捉え方になると、科学的にはミスリードになってしまう可能性があるため、「使い捨て」という文言を入れない方が良い。

小幡部会長 「川にごみが流れている」の回答数は、以前から継続してトップである。地域別や年齢別で分析したものの、はっきりしない結果であった。地域別や年齢別の分析はできると思うので、必要があれば分析していければと思う。

事務局 このアンケートの属性としては行政区ぐらいでしか分かれていないため、解像度を上げることに制約がある。

また、公害の苦情の要因を見ると、大気や騒音は発生源がはっきりしているが、水質に関しては苦情の発生源がはっきりしていない状況がある。人々がどのような原因で川に対してこのような認識を持っているのか、多角的に捉えていかないと答えに行きつかないと思うので、また御助言等をいただければ非常にありがたいと考えている。

山口委員 40ページの雑がみの分別について、「どの紙が「雑がみ」として分別の対象であるかが分からない」が多く、45%である。今年、プラスチックの分別が始まり、来年はかなり燃やすごみが減ると思うが、ペットボトルの分別が分からない人がたくさんいると思うので、周知徹底する方法を考えていただきたい。

また、エコバスツアーについて、学習会は実体験として、ごみの焼却や様々なエコの話を聞けるため、環境教育や環境の意識向上に一番良いと思う。今年から各地域で見学ツアーを設定することができなくなったが、今よりも拡充していただきたい。

事務局 エコバスツアーについては、財政状況により2年前から、地域の皆さんの御要望に応じて組み上げるオーダーメイド型が休止になっており、今後どうするのか検討を進めている。

尾崎委員 見学施設は不便な場所にあり、バスに乗っても乗り換えが大変で、近くまで行けないので、どうしてもエコバスが必要になってくる。女性会の活動として地域でまとまった人数で環境学習をする時に、バスがないと困るので、ぜひ再開していただきたい。

大島委員 14～16ページのエネルギー消費に関連して、新しい住宅は政府の規制も厳しくなり、断熱性能も高まっている。一方、京都の住宅は古いストックが多く、古い京町家はなかなか暖房や冷房が効かず、京都の文化の継承を考えたときに、環境面が課題となる。他方で住宅政策では、新町家や平成の京町家など、様々な展開がされているので、住宅内のエネルギー消費を下げる勢いが強まると、町家を壊せともなりかねない。これらを踏まえて、しっかりと様々な試みを行っている伝えてはどうか。例えば、WEBサイトなど別のセクションで紹介しているものがあれば、「詳しくはこちら」と二次元コードを貼るか、冊子に論点を記載してはどうか。

小幡部会長 京町家の断熱効率について大学が実験している。そのような新しい技術、外向けに情報発信できる内容は記載した方が良いと思うので検討をお

願います。

事務局 資料に基づき、残りの第４章について説明。

小幡部会長 千葉委員が御指摘のマイクロプラスチックについては、「使い捨て」の記載はどのようにするか。

事務局 プラスチックは使い捨てでなくてもマイクロプラスチックの生成の要因にはなるので、「使い捨て」は削除したい。

大島委員 長期目標１について改行を工夫したら１ページに収まって見やすい。

大久保委員 ５８ページについて、今回、分野横断で書かれており、つながりが大変分かりやすくなった。気候変動と生物多様性のトレードオフについて、京都であれば、どのようなことがあるのか、具体的に書いた方が良いのではないか。

６０ページについて、先ほど意見があったとおり、エコバスツアーは身近な体験ができる機会として、とても重要であり、部会において意見があったことを記載し、来年度予算の獲得など、何らかの形で復活を目指したら良いのではないかと思う。

事務局 気候変動と生物多様性のトレードオフについて、分かりやすく記載する。

エコバスツアーについては、部会から頂いた貴重な御意見であり、京都市総体として予算の見通しも踏まえたものになるが、しっかりと検討させていただきたいと思う。

永田委員 京都市は様々な箇所にカメラを設置して混雑状態のデータを把握していると思う。今後、その情報を積極的に活用し、エネルギーの掛からない最適な移動モデルの発信についても検討を進めていきたい。

山口委員 「歩くまち・京都」について、自転車を活用すればＣＯ₂の削減になるため、利用方法を考えたら良いと思う。観光地をレンタル自転車で移動するなど、海外でも自転車を活用している事例がある。

事務局 ５６ページの人と公共交通の優先について、観光のモビリティがあまり書かれていないため、御指摘を踏まえ検討する。

事務局 年次報告書の案については、本日頂いた御意見を踏まえ、事務局で修正した後、小幡部会長、大久保委員に御確認いただく。環境審議会への確認については、今のところ諮問事項がないため、委員にメールにより御確認いただく。その後、小幡部会長に御確認いただき、ホームページに公表していきたいと考えている。

各委員 **【異議なし】**

事務局

次回の部会については、現時点で今年度中に開催する予定はないが、今後、国の動きなどを注視し、必要に応じて開催をさせていただく。

3 閉会